

研究所だより

とよなか都市創造研究所

平成 23 年 (2011 年) 7 月 Vol.1

とよなか都市創造研究所の情報誌が再スタート

研究所の様々な活動内容などを紹介する「ニュースレター」を平成 9 年 (1997 年) から発行していましたが、研究所の内部組織化などもあって平成 18 年 (2006 年) 9 月の 31 号を最後に中断していました。このたび、タイトルも新たに「研究所だより」として、再スタートすることができました。研究の進行状況のほか、その時々のお話なども掲載していく予定です。ご意見・ご感想をお気軽にお寄せください。

◆とよなか都市創造研究所の機能と事業内容

現在の研究所は、平成 9 年に豊中市が自治体外部型のシンクタンクとして設立した任意団体の「豊中市政研究所」がルーツで、平成 19 年 4 月の市の組織・機構改革によって、内部組織化され政策企画部に位置付けられています。

1 調査研究

まちづくりの課題解決と政策目標づくり

社会環境の変動等を見据えながら、中・長期的な視点からまちづくりの課題解決や政策目標づくりをめざして調査研究を行います。

2 データバンク事業

様々なデータを収集して関係部局や市民に提供

調査研究活動をバックアップするために、豊中市政資料をはじめとする関係機関の資料などを収集し提供します。

3 普及啓発事業

研究成果や都市政策情報等の発信

機関誌や調査研究報告書の発行、報告会の開催等を通じて、都市問題や政策課題等の情報を発信します。

4 人材育成事業

政策研究の仕組みづくりと政策形成能力の養成

研究者等との共同研究を通じたネットワークづくりや、職員研修所との連携により職員の政策形成する力を培います。

◆調査研究テーマ

当研究所が担う調査研究は、中長期的な視点に立った都市政策の展開に寄与することを目的としていることから、必ずしもすぐに施策や事業に活かすことのできる内容のものではありません。

研究テーマの設定や研究計画等については、専門性・多様性を補完するため、学識経験者・市民等 7 名で構成する助言機関「とよなか都市創造研究所運営委員会」の意見や助言を受けています。

◆これまでの研究成果

研究成果は、報告書にまとめるとともに、報告会で発表し、さまざまな公共的課題に対して具体的な提案を行ってきました。例えば、市民公益活動条例の制定や、人材育成基本方針の見直し、市有施設の有効活用策に活かされ、施策にもつながっています。

◆関係部局・職員・市民との関係

本年度の新たな取り組みとしては、テーマに関連するセクションとの連携や、公募の職員との共同研究にも着手し、庁内各部局の政策形成を側面から支援する機能を強化しています。

また、助言機関の運営委員会のメンバーとして公募の市民に参加いただくとともに、テーマに応じて市民との意見交換にも取り組んでいます。こうした、職員や市民との連携・参加を念頭に置きながら、充実した取り組みを進め、まちづくりに貢献できる身近な研究所をめざしています。

平成 23 年度 調査研究

研究所では、3名の研究員が基礎研究2テーマと基幹研究1テーマに取り組んでいます。各テーマの内容をご紹介します。

◆（基礎研究）「とよなかのすがた（仮題）」～数値から見た豊中市の現状把握～

本研究では、基本計画における施策体系、または、市の広報誌やホームページの目次などの分類に沿って、各政策テーマに関する市の現状や課題と取り組み内容などを、基本的な統計データ等で取りまとめて整理します。そして、広く市民への成果物の頒布を念頭に置

き、当市が直面している現状認識を共有しやすいようにデータ加工を施したデータブックを作成します。

また、データブックの編集・作成にあたっては、職員参加の横断的な編集会議を立ち上げ、事業実施の実践的な経験知を反映したものとする予定です。（村山）

◆（基礎研究）豊中市の活力・魅力づくりに関する調査研究

近年のわが国全体の社会経済の変容は、もちろんのことながら豊中市にも影響を及ぼしています。第3次豊中市総合計画後期基本計画では、「人口減少社会に対応した生活環境の整備と自律した都市づくり」を基本方針とし、少子高齢化への分野横断的な対応と、自治都市の確立を主要テーマとしています。

とりわけ、少子高齢化への「分野横断的」な対応は、例えば学区的な従来のくくり方で豊中市を捉えることもさることながら、「少し違ったくくり方」で豊中市のイメージそのものを捉えなおすことが必要となります。限られた資源で効率的に事にあたるには、豊中市の強み・弱みを明らかにし、短期的に対処できることと、

中長期的に対処していくべきことを分野横断的にくくり直す必要があるからです。

本調査研究の目的は、豊中市内外の市民・事業者の視点からみて、豊中市にはどのような強み・弱みがあるのかを明らかにすることです。とよなかのイメージとはどのようなものなのか、というところから出発し、短期的にアピールできる見込みのあるもの、中長期をかけてでもアピールしていく価値のあるものを探ることもあります。

一所懸命に本調査研究に邁進する所存です。どうぞ宜しく願い申し上げます。（大床）

◆（基幹研究）若年層（高校生）の地域活動の推進の要件と地域コミュニティの考察（Ⅲ）

高校生をはじめとする若年世代は、地域との接点が希薄となる世代ですが、その一方で近い将来に地域を支える中心的な役割を担うべき人材として期待されています。このようなことから、本研究では、今後の地域コミュニティのあり方を含め、これらの若年層世代、特に高校生に焦点をしぼり、地域との関わりを促進するための要件や問題点、課題を探っていきます。

特に、今年度は研究3年目の最終年度として、高校生にとって一番身近な存在である高校（教諭）体制を中心に調査し、どのような環境があれば活動が展開されていくのかについて、研究を行う予定です。（岩佐）

高校のクラブ活動等を通じて学んだことを、小さな子どもに教える取組みが、あちらこちらでうまれていきます。



幼児と青少年交流事業の様子（青少年育成課）

とよなかのすがた ー流動人口の巻ー

統計数値を中心として、今後の市政に資する豊中市の現状を考えてみるコーナーです。

終わりの見えない人口減少時代にあって、定住人口以外にサービス受給者の総体を示せる人口フレームがあるなら、その拡大を政策目標とすることは重要となるだろう。もしくは、そのフレームに注目することが、新たな政策目標の発見につながるのかもしれない。過去、そのような人口フレームの1つとして交流人口が提唱されたが、どういった影響による何を交流とするかが複雑であり、その指標化は不明瞭なままである(国土庁計画調整局編[1996]を参照)。また、地域活性化のための観光交流への注目が一般的だが、これといった観光資源を有さない豊中市ではあまり意味がないだろう。したがって、今回は、非日常的な交流でなく日常的な流動人口の様相から「とよなかのすがた」を探ろうと思う。

国勢調査の公開データをもとにした平成2年以降の15歳以上通勤・通学目的の流入人口は、豊中市と吹田市でなだらかな減少傾向にあり、池田市と箕面市ではほぼ横ばいの状態である。また、流入と流出の差分である流入超過人口は、平成17年の豊

中市で-43,853人、吹田市が-8,225人、池田市が-6,177人、箕面市では-19,629人となっており、豊中市は他市と比べても極端な流出超過にあるのが分かる。

豊中市の日常的な人口移動が流出傾向にあるのは分かったが、つぎに、その流動の内訳に注目する。図1は、平成17年の15歳以上就業者流入人口と、各市町村の流出人口に占める豊中市への移動の割合を図示している。結果は、豊中市への流入で最も多いのが大阪市の10,672人、次いで吹田市の7,420人となった。しかし、豊中市への移動割合をみると、池田市の15.84パーセントや箕面市の14.87パーセントが高く、大阪市や吹田市からの移動割合は豊能町や能勢町、兵庫県川西市より低くなる。一方、図2は、豊中市から周辺市町村への流出人口とその割合である。こちらは、大阪市への流出が58,341人で豊中市からの流出全体の半数以上を占めており、その他の主要な流出は吹田市への11.20%程度となった。

表1 流入超過人口の経年変化

(単位:人)

		H2	H7	H12	H17
豊中市	流入人口	83,402	82,418	75,187	72,269
	流出人口	141,905	138,621	123,008	116,122
	流入超過	▲ 58,503	▲ 56,203	▲ 47,821	▲ 43,853
池田市	流入人口	31,726	26,648	26,230	26,655
	流出人口	38,322	39,777	34,309	32,832
	流入超過	▲ 6,596	▲ 13,129	▲ 8,079	▲ 6,177
吹田市	流入人口	110,943	118,925	113,134	103,809
	流出人口	123,814	124,165	114,588	112,034
	流入超過	▲ 12,871	▲ 5,240	▲ 1,454	▲ 8,225
箕面市	流入人口	27,514	27,728	25,833	24,284
	流出人口	47,382	50,552	44,761	43,913
	流入超過	▲ 19,868	▲ 22,824	▲ 18,928	▲ 19,629

以上のような豊中市の流動人口の内訳からは、大阪市への圧倒的な流出超過と吹田市への流出を除けば、周辺自治体から市への流入傾向が明らかである。そして、主には市職員であろう公務従事者数を除いたとしても、阪急宝塚線沿線の池田市、箕面市、兵庫県川西市、兵庫県宝塚市といった自治体からの流入が多くなっている。このことから、豊中市が大阪都市圏の良好な住宅都市の1つであると同時に、都市核に隣接する経済的な副都心としての機能や役割も果たしているとは考えられないだろうか。そして、豊中市には、そのような両面を考慮した多様な発展が可能な点に大きな特徴があるのかもしれない。(村山)

参考文献・資料

国土庁計画調整局編[1996]『交流人口—新たな地域政策—』、大蔵省印刷局

政府統計の総合窓口 e-Stat (<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do>; 最終アクセス日、2011年7月11日)

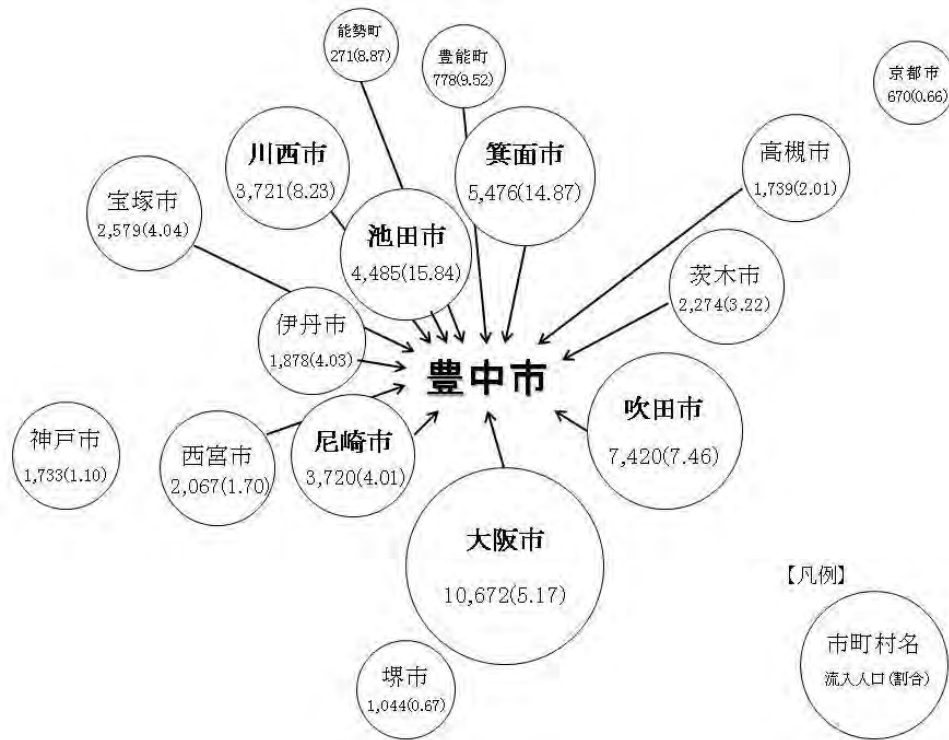


図1 15歳以上就業者の流入人口

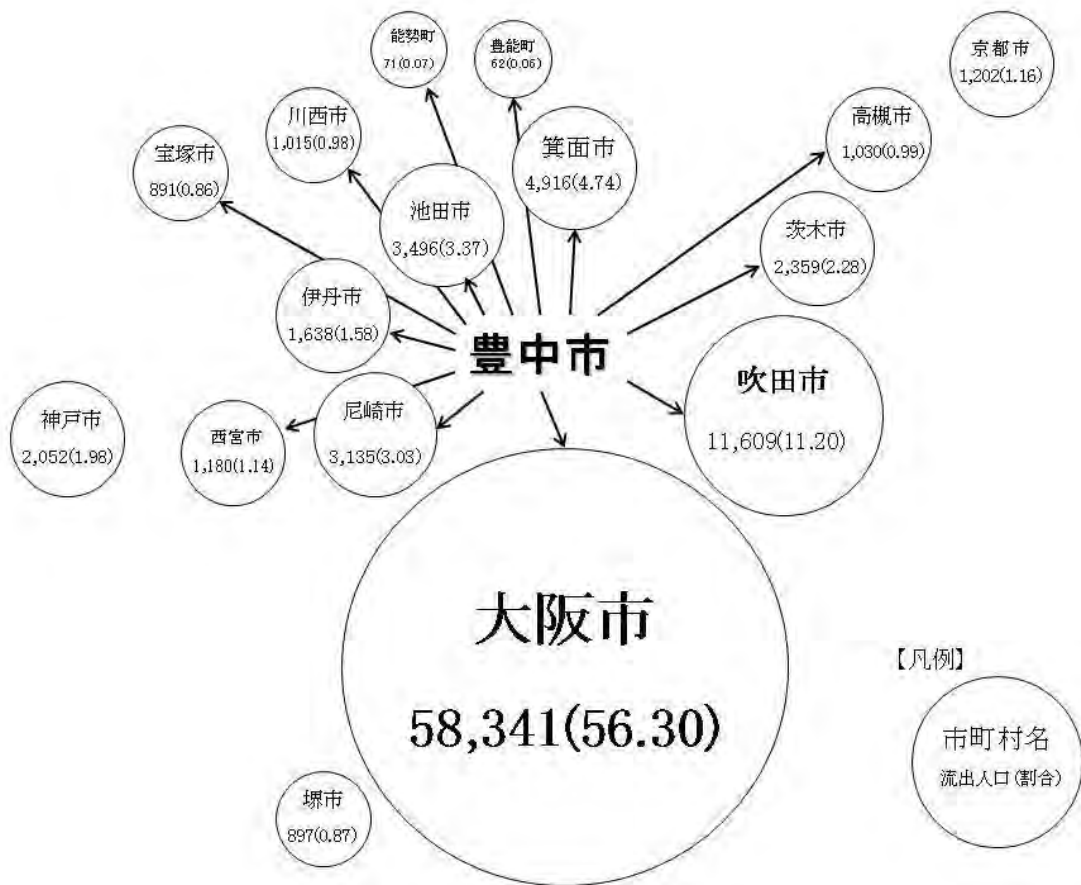


図2 15歳以上就業者の流出口

研究フォーラム報告

6月9日（木）に職員研修センターと共催で、研究フォーラム・研究報告会を開催しました。

フォーラムは「まちづくりへの市民参加と協働のあり方」というテーマで、市民団体でご活躍中の上村有里さんと山田廣次さんにお越しいただき、活動の内容や研究所への期待を語っていただきました。お二人のお話の一部を紹介します。



上村さん：私は「赤ちゃんからのESD」という団体の代表をしています。ESDとは「持続可能な開発のための教育」ということで、社会における課題を身近な暮らしと結びつけて

主体的に行動を起こせる人を育てる学び合いのことで、安全で安心して暮らせるまち、多世代が生き生きと暮らせる町、持続可能なまちづくりをめざし、2006年から「赤ちゃんからのESD」をスタートしました。具体的には、連続講座、陶器とりかえ隊、子育てママの視点でまち歩き、親子カフェ、などを企画運営してきました。

この6年間の活動を通じて、様々な社会の問題に取り組むためには多様な主体と協働していくことが必要であると実感しました。我々の事業の中心メンバーは5人ほどですが、行政、NPO、大学、地域などさまざまな主体と共催、協働することで実現可能となっています。協働のスタイルも、その時の社会の状況や課題に応じて変化させつつ、これからも持続可能なまちづくりを続けていきたいと思っています。



山田さん：私はNPO法人とよなか・歴史と文化の会の代表理事をしています。一昨年11月から、原田城跡・旧羽室家住宅の一般公開が始まりました。毎週土日だけの公開ですが月

120~150人の来場があり、「人との出会い」「学ぶ楽しさ」「文化とのふれあい」という3つのテーマで催しを行っています。

我々の活動は地域文化遺産の保存と活用を目的としており、文化財の公設民営という豊中市では初めての取り組みです。この運営管理は市から我々への委託契約という形ですが、単に依頼されているというだけで

なく、契約にあたっては話し合いを重ね、民間の在野性を活かした協働になっています。これを実現するためには、市民同士のネットワークが必要で、情報共有のしくみ、地域プラットフォームを育てることが必要になってきます。本研究所の成果がそのツールの一つになることを期待しています。

司会：お二人に共通した点は、テーマ主導の活動であるために協働が継続的になっていることだと思います。加えて、上村さん場合には環境・食・安全などという分野横断、山田さん場合には歴史遺産と文化的イベントという分野横断があり、そこから2次3次的な拡がりへと発展していると言えるでしょうか。

上村さん：テーマ型だと、深く掘り下げてしまって分野横断になりにくいという側面もあります。テーマ型と地縁型と組み合わせるといいかもしれません。

山田さん：地域に根差さないとやっていけない、長続きしない取り組みをしています。旧羽室家住宅で言えば、雨戸を開けるだけでも大変なマンパワーがかかります。地域の人々の日常的な協力があってこそです。年1回だけ来てくれる人が数百人いますが、何もなくても来てくれる人が大切。知名度をあげ、人を集めるための催しをしていますが、催しがなくても維持運営できるようになるのが理想です。

フォーラムは市民、職員、他自治体の方など、約50人の参加があり、熱心に耳を傾けておられました。時間がなく、フロアからの質問を受け付けることができませんでしたが、フォーラム終了後は会場内外で話が弾んでいました。ありがとうございました。



お知らせ

◆研究所ライブラリをご利用ください

研究所では、市政に関する専門書・専門雑誌を貸出しています。4月に市役所別館（旧国際交流センター）3階に移転し、市役所から近くになりましたので、是非お立ち寄りください（下地図参照）。

研究所入口のライブラリコーナー（写真）には、主にシリーズものの書籍と市政資料、新刊雑誌を展示し

ています。他の書籍や、雑誌のバックナンバーは地下の書庫にあります。ご案内いたしますのでお気軽にお声をかけてください。

研究所の所蔵書籍一覧は、毎月庁内LANにアップしています。お気軽にご相談ください。



◆ご応募ありがとうございました

データブック「(仮称) とよなかのすがた」編集委員の庁内公募に、たくさんのご応募をいただきました。来月から、編集会議を始めたいと思います。データの収集等で職員の皆さんにご協力いただくことになるとは思いますが、よろしくお願いたします。



市役所別館はココです



とよなか都市創造研究所メンバー

《《 2011年 夏!! 》》

- 所長：久野恒春「ひたすら歩きます」
- 主任研究員：岩佐恭子「今年も熱闘甲子園」
- 研究員：村山 徹「BBQセットを新調して、海へ！」
- 研究員：大床太郎「嗜むダイエットでスリムに！」
- 研究助手：木村直也「週2で、海水浴に行きたいです」
- 研究助手：善教将大「和牛のユッケを腹一杯食べたい！」
- 研究事務員：仲谷美江「夏は冷麺のち素麺、時々カレー」

発行日：平成23年(2011年)7月
発行：とよなか都市創造研究所
連絡先：大阪府豊中市北桜塚3-1-28 市役所別館3階
TEL: 06-6858-8811 FAX: 06-6858-8801
Mail: tium@tcct.zaq.ne.jp
HP: <http://www.tcct.zaq.ne.jp/tium/index.html>